

# 世界史研究推進委員会

共同研究「高大連携」および「世界史への興味・関心を育む教材・指導法の研究」経過報告

湘南高等学校 中山 拓憲

## はじめに

この研究報告が皆さまの手に届けられる時期には、新型コロナウイルス感染が季節性インフルエンザなどと同等の第5類になり、制限緩和は一層進みます。しかし、新型コロナウイルス自体が消えるわけではないですので、考えの違いがより可視化され、一層もやもや感のある日々がやってくるのだらうと思います。また、現時点(2023年2月末)で、ウクライナ戦争が終わる気配はないどころか、終わりどころも見えなくなっています。歴史を勉強したからといってすぐに世界が変わるわけではないかもしれませんが、一步一步、現実の社会とも向きあおうと考える次第です。

その中で、我々、世界史研究推進委員会は、制限のある中ではありましたが、充実した一年を過ごせました。2023年度も、より充実した活動や催しを行っていきたくと考えておりますので、一人でも多くの方に参加していただきたく思います。委員会のメンバーになって企画・運営に関わっていただける方がいれば、なおありがたいです。

## 「歴史総合」元年

昨年度(2022年度)は「歴史総合元年」ということもあり、歴史総合の実践報告が多く行われました。社会科部会の春季研究大会では、鎌倉高校の佐藤生が先進的かつ野心的な実践報告を行いました。

また、日本史研究推進委員会と我々の合同で、日世合同研究委員会を2回開催しました。そこで計4名の先生(翠嵐高校の矢野先生、鎌倉学園高校の神田先生、横須賀大津高校の松木先生、大磯高校の中田先生)から実践報告がありました。佐藤先生、矢野先生、松木先生の実践報告は、新学習指導要領の内容を各先生方が吸収した上で、全体の構成や授業の手法を独自に考えた授業でした。特筆すべきは、教科書をすべて終わらせてこそその歴史総合だという考えに立ち、年間計画を立てられていたことです。それに加えて、知識の習得と生徒が思考する活動を両立させている工夫がなされていることも大いに参考となりました。歴史総合だから当然だと言われればそれまでですが、やはりすごいなあと感じました。神田先生と中田先生の実践は、歴史総合を多角的な視野から見るためのヒントとなるものでした。神田先生は世界史の教員が日本史の分野を扱う際の困難さについて問題を提起されました。時間が少ないからこそ、教員の教材への深い理解が必要だと感じました。中田先生は、今年、他の先生と組んで歴史総合をやった経験からの問題点を紹介されました。また入試や探究科目との関連で、歴史総合を考えるという視点も提示されました。

## 「世界史探究」開始に備えて！

今年度は、「世界史探究元年」です。世界史(日本史)探究の実践報告もやりたいと考えております。

毎年夏に開催している「高大連携講座」では、昨年度から世界史探究を意識したテーマを設定し、12～14世紀のユーラシア地域のつながりを扱いました。今年度は、引き続き15世紀以降のユーラシア地域のつながりを扱う予定です。

## それ以外の活動

以上の活動のほかに、2か月に1回程度(4、6、8、10、12、2月頃)に例会を行い、読書会や教材の交換を行っています。現在は、桃木至朗編『ものがつなぐ世界史』(ミネルヴァ書房)を読んでいます。もし、委員会の参加を希望する先生がいらっしゃいましたら、気軽に中山までご連絡ください。